

2017年。メキシコシティにて無事迎えることができました。去年の8月からメキシコ研修が始まり、毎日スペイン語の勉強に追われる日々を送っています。とはいえ勉強だけではなく、12月上旬に私たちが通っている CEPE の学期末試験が終わり、1カ月弱の休暇のなかでたくさんの場所を訪れました。今回はその休暇中に訪れた場所と、メキシコの年越し、お正月について報告していきたいと思います。

メキシコの年越しとお正月

授業の中で、「あなたの国で、一番重要な行事は何？」という話題はよく出てきます。メキシコでは国をあげてみんなでワイワイお祝いしたり、町中がそのイベント一色に染められたりするような行事がたくさんあるのですが、思えば日本はそこまでそのような行事がなくていつも返答に困ってしまいます。クリスマスもバレンタインも、祝う人もいれば全く関係ない人もいるし、建国記念日になにか特別なことをしたこともありません。とりあえず一番重要な行事は、日本では「お正月」と答えています。その後おせち料理の説明をするのに毎回かなりてこずるのですが、、、

そんなお正月をメキシコ人はどのようにして過ごすのでしょうか。死者の日や独立記念日のようには町は飾られていません。年越しの夜、普通の土日でもにぎわっている夜のコジョアカンの中心地に行っても店はコンビニを除いてほぼ閉まっています、クリスマスの名残のイルミネーションがぼつんと光っているだけでした。ソカロ周辺は年越しイベントがあったようですが、基本的にメキシコ人は家族と家で過ごすことが多いようです。レストランなども早めに閉まり、博物館なども閉まる場所が多いので、観光には不向きな時期と言えるでしょう。

年越し独特の食べ物もあります。日本では年越しそばを食べますが、それと同じようにメキシコではぶどうを食べます。これは「幸運を呼ぶ12粒のブドウ」と呼ばれ、新年の12ヶ月を象徴しそれぞれの月の幸運を祈るという意味があるとか、カウントダウンに合わせて12粒食べ切れたら新年に願い事がかなうなど諸説ありますが、スペインから来た文化だそうです。

日本のお正月は3日続きますが、2日からはみんなわりと平常通りに働き始め、お正月は終わりです。意外にあっさりとしていますね。なんでもクリスマス期間が12月16日～1月6日まで続くそうで、その期間のなかでお正月が来ますから、それが原因かもしれません。

パンの中から
人形が！



1月6日 三賢人の日 (Reyes de Reyes) に食べるパン。中にはいくつかニーニョ・ヘスースの人形が入っており、それが当たった人は2月2日にみんなにタマレスを御馳走することになっている。

タスコ観光

タスコはメキシコシティから 170 キロほど南西に位置しています。スペイン人によって北中米最初の鉱山が作られ、銀の発掘で栄えた 18 世紀の建物が多く立ち並ぶ美しい町です。鉱山以外の大きな産業が発達しなかったため、狭い傾斜地にコロニアル調の古い町並みが今でも美しく残っているのが特徴的です。もともとスペイン人の侵略以前は先住民の住む集落だった地域に 1524 年から銀鉱脈を探す鉱山技師たちが住み着き、タスコ・ビエホ（旧タスコ）が作られたといわれています。1743 年にフランスの鉱夫ボルダによって大銀鉱脈が発見されたのを皮切りに「シルバー・ラッシュ」が始まり、町の規模は一気に拡大しました。大富豪となったボルダは財産を豪華な教会や庭園につぎ込み、町はさらに繁栄していきましたが、銀鉱脈が枯れてしまうと町は衰退を始めていきます。現在ではコロニアル様式の町として外国からの観光客でにぎわっています。



町の様子はとても穏やかで、狭い道や急な坂道が多かったです。どこを歩いても銀細工のお店が所狭しと立ち並び、アクセサリーが好きな女性には一日中観光しても時間が足りないかもしれません。

町の様子はとても穏やかで、狭い道や急な坂道が多かったです。どこを歩いても銀細工のお店が所狭しと立ち並び、アクセサリーが好きな女性には一日中観光しても時間が足りないかもしれません。

サンタプリスカ教区教会

1751 年から 1759 年にかけてタスコの銀鉱王ボルダが、「神はボルダに富を与え、ボルダは神にこれをささぐ」という家訓を実行して町に寄贈したチェリゲラ様式で飾られた教会です。

